

報告：原発問題をめぐる全体状況

@第 86 回脱原発八千代ネットワーク定例会

2019 年 11 月 23 日 川井康郎

1. フクシマの状況

- (1) 台風 19 号により高濃度に汚染された山林の土砂が河川や道路に流出し、汚染が拡大。住宅地を含む各地で 3,000 - 5,000 Bq/kg のセシウムを検出。
- (2) 11/15 排気筒の解体作業中に 110m の高所から計 6.7kg の部品が落下。強風によるものと。作業の再開は 11 月末か？ 一方、機器の故障により中断している 3 号機の使用済み核燃料取り出し作業も再開には時間がかかる見込み。
- (3) 11/18、ALPS 汚染水処理に関する有識者による第 15 回小委員会（経産省主宰）開催。海洋放出による人への空間線量による影響は少ないと報告されたが、肝心の内部被ばく問題に言及しないすり替えである。汚染水問題解決の見通しはたっていない。市民側は大型タンクによる陸上保管の継続、あるいはモルタル固化による永久処分を提案している。



2. 原子力規制と再稼働の動き

- (1) 稼働状況：運転中は 7 基（大飯③④、高浜③、伊方③、玄海③④、川内①）。定期点検中は 2 基（高浜④、川内②）。
- (2) 東海第二の安全対策工事費をめぐって日本原電は、東電から約 2,200 億円、他の電力大手から約 1,300 億円の拠出を受ける予定。原電が破綻した場合、回収は困難であり、東電は巨額の損失を被る。賠償や復旧に充てるべき資金を東海第二につぎ込むことはあまりにも不当。原資は電気料金。
- (3) 石巻市民は東北電力女川原発再稼働をめぐり、宮城県と石巻市に対して同意の差し止めを求める仮処分を近く仙台地裁に申し立てる予定。避難計画の実効性を争点にする新しい枠組み。

3. その他のトピックス

- (1) 関電の原発マネー不正還流をめぐって、市民団体が 12 月 13 日にも東京あるいは大阪地検に特別背任罪を視野に告発の予定。対象は八木会長ら関電役員、関係者 20 人。
- (2) フランスが次世代原子炉の高速炉「アストリッド」の開発中止を決定したのに伴い、経産省は 2020 年度の概算要求に関連予算を含まず。日本の核燃料サイクルは完全に破綻。

<以上>